

(5) 講評

山口県教育庁義務教育課指導主事

大野直子先生

公開授業、分科会、全体会での発表は、いずれも内容が多岐にわたっていて、それぞれ創意工夫されたすばらしい実践でした。研究紀要にも実践や研究の成果が詳しくまとめられており、内容のすばらしさに敬意を表します。また、全体会場に掲示・展示されているたくさんの実践結果や作品等は、とてもよい勉強の材料となるものです。

今年3月に、新しい学習指導要領が告示されました。従って本大会に向けて研究を進めていくにあたっては、現行の学習指導要領によりながらも、実践の中では、新しい家庭科教育の方向性を探るとい形になりました。研究主題「家族や家庭生活に積極的にかかわり、よりよい生活を創り出そうとする子どもの育成」は、今回の学習指導要領改訂の趣旨にも沿ったものであると考えています。

<基礎・基本を大切にされた家庭科教育>

山口県においては「生活の中から課題を見つけ、主体的な学習を展開し、学習内容の確かな定着を図る」ことが、「よりよい生活を創り出そうとする」実践的な態度につながるであろうという仮説に基づいた研究を進めてきました。

本日の授業の中にも、身近な生活の中から課題を見付け、それを解決していこうとする様々な過程で、家族とあるいは家庭生活の中でのやり取りから進めていくものがありました。こうした主体的な学習を展開する上で「主体的な」というところにだけ目を向けてしまうと、ややもすると子どもたちの意欲や創意工夫だけが、どんどん自由に先走って膨らんでしまうことがあります。家庭科というのはそういう傾向ももちあわせる場合があるのです。小学校の段階で身に付けるべき基礎的・基本的なことあるいはそういう力を子どもたち一人一人に、確かに身に付けさせることは、研究仮説に「学習内容の確かな定着を図る」と表わされているように、留意すべきことです。

小学校での家庭科の学習において、調理を行う場合に学ぶ基本的・基本的な技法は「ゆでる」

ことと「いためる」ことです。これを、小学生の子どもたち一人一人がきちんと身に付けることが、その後の中学校での家庭科の学習に、ひいてはその後高校に進学すれば、高校での家庭科の学習に、そして生活者として自立していくことにつながる出発点となります。

子どもたちの創意工夫を生かすこと、主体的に学習を進めることも大切ですが、そのとき小学校で身に付けるべき基礎的・基本的なことは何であるかということ、指導者がしっかり頭に入れた上で指導を進めていくこと、指導計画を工夫していくことが重要になります。

<小中連携>

小学校の指導者は、中学校での学習内容をよく知り、小学校で身に付けるべき力は何か、小学校での学習が中学校での学習のどこにどのようにつながっていくのか、しっかり理解して見通しをもって指導を行ってほしいと思います。そのことが「家族や家庭生活に積極的にかかわり、よりよい生活を創り出そうとする子ども」を育成する上でたいへん重要です。もちろん、小学校での家庭科以外の教科に家庭科がどうかかわるかを理解した上で、家庭科との結び付きを考えつつ指導することは言うまでもありません。

新学習指導要領の実施に向けて、それぞれの校区の中学校と情報交換をするなど、連携を図ってほしいと思います。新学習指導要領の冊子の中には中学校の学習指導要領も掲載されています。同様に中学校の学習指導要領の冊子にも小学校の学習指導要領が掲載されています。これは小学校の指導者、中学校の指導者が互いに、その学習内容を知り合い、その上で指導を進めていくことの重要性を表しています。

家庭科という教科のもつ意味やすばらしさ、可能性をたくさん感じさせていただくことのできた大会でした。